
令和 6 年度（2024 年度） 事業計画書

札幌市若者支援施設

令和6年度 事業計画書（案）

【若者支援事業課】

<行動計画の要旨>

事業面においては、こども家庭庁の指針を基に、協会内外の資源を生かした居場所づくりとその認知度向上を図る。また、日常的なユースワーク実践に加え、全国ユースワーカー協議会、子ども・若者支援地域協議会等のネットワークを通じて新たな社会課題をキャッチし、いち早く対応するための事業や助成金の獲得をこども事業課やSPNとの協働の基に進め、5年先を見据えた若者支援に係る先進的实践事例を蓄えていく。

管理面においては、人件費の比重が多くを占めているが、アウトリーチ型事業や他課・他団体との連携が可能なスタッフ体制を整えることで、部内そして協会内事業間の連動に貢献する。また、経営感覚を育てるための人材育成にも注力する。

1. 事業戦略に基づく行動計画及び数値計画

戦略①	こども家庭庁が居場所づくりや子育て支援、貧困対策を推進する中で、当課の支援ノウハウを生かした事業の拡大を図る。	
<行動計画> 若者一人ひとりに必要な居場所機能を明らかにし、多様な過ごし方を提案し実践する。		<数値計画> 居場所利用延べ人数：37,000人／年
戦略②	こども家庭庁の取り組みに乗じて、若者のニーズを引き出し社会に反映する事業を施設内外へ拡大する。	
<行動計画> 若者のニーズ調査を行い、ニーズに沿った事業の検討とプレ事業を実施する。		<数値計画> 延べ参加人数：50人／年1回
戦略③	施設の老朽化に伴い閉館のリスクに備え、国の動向を注視し、社会課題を先取りした事業を行うことにより市民の支持を高める。	
<行動計画> 若者を取り巻く環境及びニーズを調査していくと共に、現時点でつながりのある地域・社会資源へ向けて課題意識の共有を図りプレ事業を実施する。		<数値計画> 延べ参加人数：50人／年1回
戦略④	安定的に確保している助成金を活用し、企業独自の社会貢献事業に対処する。	
<行動計画> 社会の動向や国の施策等の情報について所管部局と共有し、具体的な事業プログラムを展開する。		<数値計画> プレ事業の実施／年1回

2. 共通数値目標

①利用者総数

【人】

R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R5 (見込)	R6 (目標)
265,123	163,533	105,806	218,232	230,000	242,000	249,000
<R6の設定根拠> 午前中の貸室利用等を含めて、令和5年度見込み数から約3%増を目指す。						

②事業プログラム参加者総数

【人】

R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R5 (見込)	R6 (目標)
49,103	35,658	30,303	41,251	40,000	44,000	45,300
<R6の設定根拠> オンラインの活用やハイブリッド開催など施設への来館にこだわらない事業展開により参加者数の増加に取組む。						

③利用者アンケートによる満足度

【%】

R1 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (目標)	R5 (見込)	R6 (目標)
96.9	97.0	98.0	98.0	98.0	99.0	99.0
<R6の設定根拠> 令和5年度時点で高い評価を受けていることから、令和6年度に向けてもその評価を維持する。						

3. 事業実施計画書(地域活動等事業)

(1)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自主事業 地域若者サポート ステーション事業 常設サテライトの 運営	【目的】石狩(札幌市を除く)・空知管内の道央地区における就労支援体制の充実を目的として、職業的自立に向けたキャリアコンサルティングや就職支援プログラムなどを実施する。(厚生労働省事業)※札幌地域若者サポートステーションの常設サテライトとして、仕様書に含まれる。 【内容】 ・地域若者サポートステーション事業の受託・実施 ・千歳事業所「若者向け相談窓口」との共催事業 【対象】 15歳～39歳までの若者、40代の就職氷河期世代 【人数】 新規登録者数:50名 進路決定者等数:30名	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 新規登録者 数:40名 進路決定者 等数:30名	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(9,800)	(2,111)
2	継続	その他事業 白石区複合庁舎 まちづくり イベント広場等 管理運営事業	【目的】市民の地域参加及びまちづくり団体などの活動の拠点として、白石区複合庁舎まちづくりイベント広場において、参加団体の調整及びイベント運営の補助を行う。 【内容】白石区複合庁舎まちづくりイベント広場の運営 【対象】市民 【人数】随時	【R5年度実績予測】			
				通年	360回	(3,436)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(3,436)	(0)
3	継続	その他事業 ヤングケアラー 交流サロン	【目的及び内容】 家事や家族の介護を担う18歳以下のヤングケアラー当事者への支援として、居場所提供のみならず、相互に悩みや自身の置かれた環境について意見交換・情報交換を行い精神的な安心感を得て、気軽に過ごせる居場所の提供を継続的に行う。こども事業課と連携し、部門内でのケース共有や相談体制の強化を図る。 【対象】家事や介護を担う18歳以下の子ども若者 【人数】新規相談件数20件 ※こども事業課連携事業	【R5年度実績予測】			
				通年	26回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
4	継続	その他事業 若者の住居支援 事業 「いとこんち」	【目的】 家庭からの自立を必要とする若者や児童養護施設等を退所した若者への自立支援を目的とし、生活活動機会及び自立に向けたサポートを行う。 ※こども事業課連携事業 【内容】 ・拠点型住居支援事業「いとこんち」の運営。 ・外部団体・個人との協力・連携体制の構築。 【対象】 おおむね13歳～19歳までの子ども・若者、児童養護施設等の出身者は24歳まで、子育て中のひとり親は29歳まで 【人数】600人	【R5年度実績予測】			
				通年	160回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
5	継続	その他事業 若者支援関連事業 の受託	【目的】若者支援事業の拡充を目指し、新規関連事業を積極的に受託する。なお、受託にあたっては、その都度、仕様書に基づき、若者支援施設の可能性を広げるための手段としての妥当性を協議する。 【内容】若者に向けて、より効果的な取組みにつながる事業の受託。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】未定	【R5年度実績予測】			
				通年	1回	(301)	(0)
				【R6年度】			
				時期未定	未定	(0)	(0)

4. 事業実施計画書(施設運営等事業)

(1) 若者支援施設全施設共通 プロジェクト事業

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	交流促進事業 アウトリーチ 促進事業	【目的】 Youth+施設外における居場所の提供を行う。居場所をとおして交流を図り、若者一人ひとりの状況に応じて、早期に必要な支援等に介入することが可能となる関係性を構築する。 【内容】 ①出張コース・ワーク (学校内居場所・定期訪問型・随時訪問型) ②Youth+みんなのカフェ部 (拠点型・巡回型・訪問型) 【対象】 主に15歳～34歳までの若者 【人数】 ①各回40～50人程度 ②各回10人程	【R5年度実績予測】			
				通年	①110回 ②125回	(119)	(1,200)
				【R6年度】			
				通年	①110回 ②125回	(0)	(1,593)
2	継続	社会参加促進事業 LGBTQ推進事業	【目的】 性別等にとらわれない居場所の開催。LGBTQへの理解を深め、LGBTQユースのニーズの把握や若者にとって有効な情報の提供を行う。 【内容】 ①居場所事業(月1回程度) ②各Youth+におけるLGBTQの啓発等。 【対象】 ①居場所: 15歳～24歳までの若者 ②啓発等: Youth+施設利用者 【人数】 ①20人程度 ②定員なし 【協働団体】 (一社) にじいろほっかいどう	【R5年度実績予測】			
				通年	①12回 ②随時	(0)	(230)
				【R6年度】			
				通年	①12回 ②随時	(0)	(120)
3	継続	社会参加促進事業 アドボカシー推進 事業	【目的】 若者が直面する様々な課題や関心ごとに焦点を当て、若者の声を社会に発信する機会を創出する。 【内容】 若者とのユースワークストーリーの蓄積と実績とその取組みの発信、他都市若者支援団体との実践交流 【対象】 主に15～34歳の若者、一般市民、 他都市若者支援団体 【人数】 事業による	【R5年度実績予測】			
				通年	11回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(50)

(2) 若者支援施設全施設共通 自立支援事業/交流促進事業/社会参加促進事業 (共通)

No	種類	事業名	目的・内容(対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 交流促進事業 社会参加促進事業 共通 情報コーナーの 設置	【目的】若者団体及び社会参加に関する情報を収集し、有効な情報提供を行う。 【内容】自由に閲覧ができるコーナーをロビーに設置し、資料等を配架する。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R5年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
2	継続	自立支援事業 交流促進事業 社会参加促進事業 共通 ホームページ管理	【目的】市民がホームページやSNSによって手軽に情報を獲得し、誰もが見やすい環境を設定する。また、各Youth+への興味、関心が高まる情報を発信する。 【内容】ホームページ及びSNSの更新・管理、ウェブアクセシビリティに準拠した設定を保つ。 【対象】札幌市民 【人数】定員なし	【R5年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
3	レベルアップ	自立支援事業 交流促進事業 社会参加促進事業 共通 オンライン 推進事業	【目的】施設外からの参加を可能とする事業を展開し、参加者の拡大を目指す。 【内容】各Youth+施設間及び他都市施設との連携をする。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】全館延べ50人以上	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
4	レベルアップ	交流促進事業 若者の交流相談 ロビーワークの実施	【目的】若者一人ひとりに合わせワーカーが意図を持って介入、関係構築を図る。 【内容】対面及びオンラインでの実践を記録し情報共有を図る。また、必要に応じてケース検討へとつなげる。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】全館37,000人以上	【R5年度実績予測】			
				通年	354日	(0)	(0)
5	継続	交流促進事業 若者団体 ネットワーク構築 Youth+NET構築	【目的】若者が中心となる団体同士や団体とまち(主に市民や他団体)を情報でつなぎ、ネットワークを構築する。 【内容】Youth+NET構築 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】定員なし	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
6	継続	社会参加促進事業 育成プログラム ユースワーカー 養成講座	【目的】大学生世代の若者を対象に、ユースワークに必要な専門的知識を身につけ、若者を取り巻く社会課題の解決に寄与する人材を育成する。 【内容】ユースワーカー養成講座の開催 【対象】大学生世代の若者 【人数】8人程度	【R5年度実績予測】			
				3月	1回	(0)	(150)
7	継続	社会参加促進事業 学習支援 ボランティアの 養成	【目的】「まなびのサポート事業」による中学生との関わりをコーディネートすることで学習支援ボランティアの成長を促進する。 【内容】まなびのサポート事業 【対象】大学生世代の若者 【人数】各館10人程度	【R6年度】			
				通年	230回	(0)	(0)
8	継続	社会参加促進事業 さっぽろ 青少年女性 活動協会連携事業	【目的】財団内での連携を進め、各課の強みや持つ資源を有効に活用し、若者に向けてより効果的な取り組みにつなげる。 【内容】他課連携事業 【対象】主に15歳～34歳の若者 【人数】事業による	【R5年度実績予測】			
				通年	23回	(0)	(0)
9	レベルアップ	社会参加促進事業 地域活動 ネットワーク構築 地域若者サポーターの獲得と協働	【目的】若者団体・市民・他団体を情報でつなぐネットワークを構築する。幅広い世代への情報発信により、人材の獲得と協働事業実施につなげる。 【内容】地域若者サポーターの獲得と協働 【対象】主に15～34歳の若者及び市民 【人数】15名の獲得、年10回の協働事業開催	【R6年度】			
				通年	48名	(0)	(0)
10	継続	社会参加促進事業 利用者モニタリング事業	【目的】若者の施設運営に対する参画意識を育む。 【内容】若者の意見や要望を取り入れるため、アンケートなどを実施する。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R5年度実績予測】			
				通年	5回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(270)

11	レベルアップ	社会的自立に関する調査研究事業① テーマ別調査研究	【目的】利用者登録時、事業実施後、利用者満足度等のアンケートの実施や関係機関へのヒアリングなどを踏まえた調査・分析を行い、若者や社会ニーズを捉えた施設運営を図る。また、オンラインにおける事業展開について調査研究事業を実施することで、オンライン空間に潜在する新たな利用者層とのつながりを作りだす。なお、若者支援施設運営協議会において、結果を報告、新たな提案を行い、委員の意見を運営に反映する。 【内容】利用者登録・満足度アンケートの実施と調査分析、オンラインロビー事業の開催 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R5年度実績予測】			
				通年	5回	(0)	(0)
12	継続	社会的自立に関する調査研究事業② 若者を取り巻く環境の調査	【目的】若者支援に関連する事業調査や実践研究を目的に、全国の若者支援施設等への職員派遣を行い、職員の専門性の会得の機会とする。また、収集した情報等は、若者を取り巻く社会ニーズに応じた取組みへつなげる。 【内容】法政大学平塚教授科研の参加、全国ユースワーク実践団体意見交換など	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(50)
13	レベルアップ	さっぽろ若者支援ネットワーク構築事業 若者支援施設運営協議会の設置・開催	【目的】事業や管理業務等の状況報告及び運営水準の向上に係る協議を行う。また、若者支援施設運営の方向性等の検討を行う。 【内容】外部委員等構成で会議体を運営する。 【対象】運営協議会委員 【人数】20名程度	【R5年度実績予測】			
				7・11・3月	年3回	(0)	(99)
14	レベルアップ	その他事業 インターンシップ 実習生の受け入れ	【目的】若者支援に携わる人材育成とYouth+の認知度の向上を図る。 【内容】依頼に応じ大学生インターンシップや職場実習を受け入れる。 【対象】主に大学生 【人数】定員なし	【R6年度】			
				7・11・3月	年3回	(0)	(115)
15	レベルアップ	その他事業 視察受け入れ 講師派遣	【目的】外部からの依頼に基づき、視察・見学の受け入れや講師・委員派遣等を行う。 【内容】視察受入、講師派遣など 【対象】各都道府県市町村、高校など 【人数】随時	【R5年度実績予測】			
				8・1月	2回	(0)	(0)
16	レベルアップ	その他事業 フードパントリー 事業	【目的】食糧等の物資を必要としている子ども若者へ届け、心とお腹を満たすとともに、その子ども若者が必要とする支援等へとつなげる。 【内容】アウトリーチ事業、いとこんち、ヤングケアラー事業、Youth+ロビー等において物資を必要としている子ども若者への宅配をとおした見守り機能。 【対象】子ども・若者、その保護者 【人数】随時	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
17	継続	その他事業 環境への取り組み	【目的】環境配慮に係る周知と啓発等を行い、利用者が共に考え行動するための機会を提供する。 【内容】環境行動マニュアルに基づいた施設運営に取り組む。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R5年度実績予測】			
				通年	5回	(0)	(0)
18	継続	その他事業 システム環境の整備	【目的】施設利用における市民への利便性の向上を引き続き図り、事務作業の効率化を図る。 【内容】施設管理を中心とした業務フローの見直しや業務のシステム化を実践する。 【対象】主に15～34歳の若者、一般市民 【人数】定員なし	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
19	継続	自主事業 飲料等の販売	【目的】利便性の向上及び収益の確保のために実施する。なお、収益は若者のニーズを反映させた備品更新等に充てる。 【内容】対面による飲料等の販売、自動販売機の設置。 【対象】主に15～34歳の若者、一般市民 【人数】定員なし	【R5年度実績予測】			
				通年	3,700件	(590)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(600)	(0)

20	継続	自主事業 地域若者サポート ステーション	【目的】若者の就労支援体制の充実を図る。 (厚生労働省事業) 【内容】 ・若者サポートステーション事業の受託及び実施 ・職業的自立に向けたキャリアコンサルティング ・就職支援プログラム等 【対象】15歳～39歳及び40代の就職氷河期世代 【人数】新規登録者数:210人 就職決定者等数:145人	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 新規登録者 数:210人 就職者等数: 90人	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(42,583)	(2,780)

(3) 札幌市若者支援総合センター (自立支援)

No	種類	事業名	目的・内容(対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	レベルアップ	自立支援事業 自立支援相談	【目的】困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくる。 【内容】 ・複数の有資格者を配置し、個別相談を行う。 ・オンラインも活用しながら相談支援を展開する。 ・適切なタイミングで支援に最適な機関へつなぐ。 ・相談者向け満足度・ニーズ調査を行う。 (年1回) 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族及び関係者等 【人数】 ・新規登録：400人 ・進路等決定：345人 【自立支援事業の重点目標】本年度は特に、学校等との連携のもとに10代の相談支援に注力する。	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 ・新規登録：375人 ・進路等決定：245人	(0)	(0)
2	継続	自立支援事業 自立支援プログラム	【目的】一人ひとりの社会的自立を支援するため、適切なアセスメントを行う。 【内容】 ・自己理解や他者理解を深め、スキル向上を目指したグループプログラムを行う。 ・オンラインも活用したプログラムを行う。 ①初期支援プログラム(居場所や集団に慣れていく段階のサポートを行う) ②就労準備プログラム(就労に向けた準備を目指していく段階のサポートを行う) ③就労支援プログラム(個別の目標に向けて活動していく段階のサポートを行う) ④10代向けプログラム(所属意識を高めながら、進路や就労に向けたサポートを行う) ⑤キャリアアップ応援プログラム(学校や職場への定着やキャリアアップに向けたサポートを行う) ⑥家族の会 【対象】自立支援事業登録者 【人数】各プログラム8人/回	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 ①週2回 ②週2回 ③週1回 ④週2回 ⑤月1回 ⑥月1回	(0)	(0)
3	継続	自立支援事業 社会体験機会創出事業	【目的】地域の個人や団体、企業等と協働し、若者を支える地域の基盤づくりを推進する。 【内容】 ・企業開拓員を配置し、相談員やユースワーカーと連携しながら企業等のもとで行うジョブトレーニングや現場見学、地域でのボランティア体験等をコーディネートする。 ・地域の個人・団体・企業等とのネットワークを構築する。 ・ボランティアサポーターの育成を行う。 【対象】自立支援事業登録者 【人数】 ・参加者延べ数：900人 ・新規登録企業数：60社 ・サポーター登録数：50人	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 参加者延べ数：840人 新規登録企業数：35社 サポーター登録数：60人	(0)	(0)
4	継続	自立支援事業 中学校卒業等進路支援事業	【目的】学校卒業時または中途退学時に進路未定もしくは教職員が心配な若者に対して、切れ目なく必要な支援につながる体制を構築する。 【内容】 ・Youth+センターを相談窓口とし、相談者の状況に応じて訪問相談に応じるほかオンラインやLINE等も活用する。 ・学校と連携を図り、必要に応じて自立支援プログラムや活動センターの事業等を活用する。 ・進路支援担当者を配置し、学校等への訪問活動を行う。 【対象】中学校・高校の卒業時または高校中途退学時に進路未定もしくは学校教職員が進学・就労後も心配な若者とその家族 【人数】 ・情報提供数：160件 ・支援開始数：60人	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 ・情報提供数：150件 ・支援開始数：58人	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(300)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(150)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(1,514)
				【R5年度実績予測】			
				通年	随時 ・情報提供数：150件 ・支援開始数：58人	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(50)

5	レベル アップ	自立支援事業 広報セミナー	【目的】子ども・若者の声を届ける機会をつくり、 自立支援事業の周知・啓蒙を進める。 【内容】 ①出張説明・相談会（Youth+センター会場、他機 関合同開催、学習支援を含む説明・相談会） ②一般市民向けセミナー ③支援者向けセミナー（教職員向け、社会課題に 応じたテーマ） 【対象】自立支援事業対象者や支援者等 【回数・人数】 ①年13回・延べ65人 ②年1回・50人 ③年2回・延べ80人	【R5年度実績予測】			
				通年	随時 ①年12回・ 延べ56人 ②年2回・ 89人 ③年2回・ 87人	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(120)

(4) 札幌市若者支援総合センター (Youth+センター・1階)

No	種類	事業名	目的・内容(対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (センター)	【目的】運営する居場所から困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくる。 【内容】ロビー相談及び相談機関への同行支援。 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族及び関係者等 【人数】新規登録：4人	【R5年度実績予測】			
				通年	4回	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (センター)	【目的】若者の交流促進と新たな居場所の創出を図る。 【内容】イラストやゲーム、読書などの趣味の活動、食に関するイベント、大学生による学習支援「ゆうがく」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回5人程度	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
3	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (センター)	【目的】若者が自主的な活動ができる居場所の提供する。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業)「わかもの寺」(北海寺)、オンラインによる居場所など 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回8人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年22回	(0)	(30)
4	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (センター)	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	年96回	(0)	(50)
5	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (センター)	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年24回	(0)	(30)
6	継続	社会参加促進事業 地域の社会活動 への参加促進 地域事業への参加 (センター)	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				時期未定	年9回	(31)	(60)
7	レベル アップ	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (センター)	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	年9回	(0)	(100)
8	レベル アップ	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (センター)	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年10回	(0)	(14)
9	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	年10回	(0)	(30)
10	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年7回	(0)	(0)
11	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	年6回	(0)	(15)
12	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年20回	(0)	(0)
13	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	年15回	(0)	(20)
14	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年12回	(0)	(15)
15	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	年6回	(0)	(30)
16	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
17	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】若者の声を反映させ、自己実現の場や体験イベントの機会を創出する。 【内容】若者主体イベント(手芸、クイズなど)「センター祭」など 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】「センター祭」150人、他各回5人程度	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(120)

※子ども事業課・こども育成課・市民参画課連携事

(5) 札幌市アカシア若者活動センター (Youth+アカシア)

No	種類	事業名	目的・内容(対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (アカシア)	【目的】困難を有する若者が、適切な相談につながる機会を創出する。 【内容】ユースワーカーによる同行支援・アウトリーチ活動 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族 【人数】新規登録：4人	【R5年度実績予測】			
				通年	5回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (アカシア)	【目的】施設内外を活用し若者の交流促進を図り、新たな居場所を創出する。 【内容】若者の興味関心を引き出す様々な活動 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年97回	(0)	(2)
				【R6年度】			
				通年	年72回	(16)	(90)
3	レベルアップ	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (アカシア)	【目的】若者が能動的に参加できる居場所を創出する。 【内容】ミニYouth+（施設外居場所作り事業）出張ユースワーク 【対象】主に15～22歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年50回	(0)	(180)
				【R6年度】			
				通年	年48回	(0)	(202)
4	レベルアップ	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (アカシア)	【目的】若者の声を反映させた事業を展開し、自己実現・交流促進の機会を創出する。 【内容】ミニライブ、ワークショップ 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年7回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	年5回	(10)	(30)
5	レベルアップ	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (アカシア)	【目的】若者が意欲的に参加し、仲間意識や所属意識を醸成できる居場所の機会を創出する。 【内容】サタデースクール、みんなのアカシア〇〇部（着物・美術他） 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年19回	(0)	(15)
				【R6年度】			
				通年	随時	(20)	(45)
6	継続	社会参加促進事業 地域の社会活動 への参加促進 地域事業への参加 (アカシア)	【目的】若者が活躍できる地域フィールドの形成を目的に連携地域との関係性を構築する。協働団体と共に、若者が活躍できる参加・参画の機会を地域の中に創出する。 【内容】町内会役員会、地域連携事業 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年45回	(10)	(107)
				【R6年度】			
				通年	年8回	(0)	(17)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (アカシア)	【目的】若者との対話の場を創出し、ニーズを引き出す。そのニーズを事業化することで若者の社会参加のきっかけ作りを行う。 【内容】利用者モニタリング、若者チャレンジ応援隊 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年8回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(50)
8	継続	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (アカシア)	【目的】若者にとって身近なテーマ、社会課題に向けて意見を表明できる機会を創出する。 【内容】掲示物・アンケートを活用した意見表明の機会創出事業 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年7回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(30)

(6) 札幌市ボブラ若者活動センター (Youth+ボブラ)

No	種類	事業名	目的・内容(対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (ボブラ)	【目的】困難を有する若者が適切な支援先につながるきっかけをつくり、個別支援を行う。併せて、困難を抱えた若者を発見するためにアウトリーチ活動を行う。 【内容】ユースワーカーによる同行支援・アウトリーチ活動 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族 【人数】新規登録：4人	【R5年度実績予測】			
				通年	4回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (ボブラ)	【目的】ロビー利用者を対象とし、施設内外を活用した事業を実施する。実施にあたっては、若者のニーズやユースワーカーの個性を活かしたイベントを中心に行う。また、利用者が参加しやすいよう、即日対応のイベントにも取り組む。 【内容】ミニイベント 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回8人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年60回	(0)	(60)
				【R6年度】			
				通年	年60回	(0)	(50)
3	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (ボブラ)	【目的】若者の居場所の選択肢を増やすことを目的として、地域資源を活かした居場所づくりを実施する。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業) 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回4人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年4回	(0)	(10)
				【R6年度】			
				通年	年8回	(0)	(10)
4	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (ボブラ)	【目的】若者の声を基に、季節行事などの文化的体験に触れる機会を提供する。特に相対的貧困にある若者にむけて、実施する。 【内容】季節行事体験事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回8人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年6回	(2)	(6)
				【R6年度】			
				通年	年4回	(5)	(10)
5	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (ボブラ)	【目的】共通の興味・関心を持つ若者にグループ活動の機会を提供する。また、ユースワーカーの個性・特技を活かし若者グループの育成を図る。実施にあたっては、グループワークの手法を取り入れ、一人ひとりの成長を促す。 【内容】サークル活動 【対象】主に15歳～29歳までの若者 【人数】各回4人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年17回	(0)	(5)
				【R6年度】			
				通年	年12回	(0)	(10)
6	レベル アップ	社会参加促進事業 地域の社会活動 への参加促進 地域事業への参加 (ボブラ)	【目的】若者が地域の事業に参加し、多世代交流をととして、社会の一員であるという気付きを得るきっかけづくりを行う。 【内容】地域連携事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年12回	(0)	(10)
				【R6年度】			
				通年	年15回	(0)	(20)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (ボブラ)	【目的】若者が意見を表明する場を提供する。また、意見を具現化することで若者が施設運営に主体的に関わる意識を持つきっかけづくりを行う。 【内容】利用者モニタリング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				7月	年1回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				6月、11月	年2回	(0)	(80)
8	継続	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (ボブラ)	【目的】若者が社会に関心を持つ機会を提供する。掲示の制作においては、若者が意見を表明できるような工夫を取り入れる。 【内容】社会課題等の掲示物の制作 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年12回	(0)	(0)
				【R6年度】			
				通年	年6回	(0)	(10)

(7) 札幌市豊平若者活動センター (Youth+豊平)

No	種類	事業名	目的・内容(対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (豊平)	【目的】困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくる。また、必要に応じて適切な相談機関・団体へとつなげる。 【内容】サポステ相談員を招いたロビーワーク・座談会・同行支援 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族 【人数】新規登録：4人	【R5年度実績予測】			
				通年	6回	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (豊平)	【目的】若者が安心して居る居場所を提供し、若者同士の交流を図る。若者のニーズ・アイデアを引き出すとともにユースワーカーの特技・興味関心を活かした事業を展開する。 【内容】若者の声ミニイベント・職員企画ミニイベント 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
3	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (豊平)	【目的】若者の居場所の創出を目的とする。関係機関や子ども若者支援団体との連携を図り、地域リソースを活用した居場所づくりを行う。 【内容】ミニYouth+（施設外居場所作り事業） 【対象】主に15歳～20代の若者・市民 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	0回	(0)	(30)
4	レベルアップ	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (豊平)	【目的】若者の自己実現を目的とし、多様な若者の興味・関心を引くイベント・講座を実施する。若者からの要望を共に実現する。 【内容】季節行事体験事業・スポーツ交流会 【対象】主に15歳～34歳までの若者・市民 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	年147回	(0)	(70)
5	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (豊平)	【目的】若者の興味関心や職員の特技等を組み合わせ内容を選定し、参加する若者同士が仲間意識を醸成していくための活動を展開する。また、主体的な運営が可能となるようサポートする。必要に応じて地域若者サポーターに講師としての協力を仰ぐ。 【内容】サークル活動（3グループ育成） 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年24回	(0)	(50)
6	レベルアップ	社会参加促進事業 地域の社会活動 への参加促進 地域事業への参加 (豊平)	【目的】地域に向けた活動への参画や地域の方との協働事業を展開し、地域への愛着を育む。また、若者が社会へ目をつける機会を創出する。 【内容】地域夏まつり・FMアップル・大学連携 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	年2回	(10)	(70)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (豊平)	【目的】若者が意見を表明する機会を提供することで、社会への関心を高める。同時に世代を超えた多様な意見に触れる機会を提供する。 【内容】利用者モニタリング・地域ミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年2回	(15)	(30)
8	レベルアップ	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】意見を具現化することで若者が施設運営に主体的に関わる意識を持つきっかけづくりを行う。話し合いをとおして、多種多様な立場の人の考えを知る機会となるように働きかける。 【内容】プレストミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	年14回	(0)	(30)
9	継続	社会参加促進事業 育成プログラム③ 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】若者の興味関心や職員の特技等を組み合わせ内容を選定し、参加する若者同士が仲間意識を醸成していくための活動を展開する。また、主体的な運営が可能となるようサポートする。必要に応じて地域若者サポーターに講師としての協力を仰ぐ。 【内容】サークル活動（3グループ育成） 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年18回	(0)	(17)
10	継続	社会参加促進事業 育成プログラム④ 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】若者が意見を表明する機会を提供することで、社会への関心を高める。同時に世代を超えた多様な意見に触れる機会を提供する。 【内容】利用者モニタリング・地域ミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	年24回	(0)	(83)
11	継続	社会参加促進事業 育成プログラム⑤ 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】若者が意見を表明する機会を提供することで、社会への関心を高める。同時に世代を超えた多様な意見に触れる機会を提供する。 【内容】利用者モニタリング・地域ミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年13回	(0)	(66)
12	継続	社会参加促進事業 育成プログラム⑥ 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】若者が意見を表明する機会を提供することで、社会への関心を高める。同時に世代を超えた多様な意見に触れる機会を提供する。 【内容】利用者モニタリング・地域ミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	年12回	(0)	(150)
13	継続	社会参加促進事業 育成プログラム⑦ 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】意見具現化することで若者が施設運営に主体的に関わる意識を持つきっかけづくりを行う。話し合いをとおして、多種多様な立場の人の考えを知る機会となるように働きかける。 【内容】プレストミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	年6回	(0)	(30)
14	継続	社会参加促進事業 育成プログラム⑧ 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】意見具現化することで若者が施設運営に主体的に関わる意識を持つきっかけづくりを行う。話し合いをとおして、多種多様な立場の人の考えを知る機会となるように働きかける。 【内容】プレストミーティング 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度】			
				通年	年6回	(0)	(20)

(8) 札幌市宮の沢若者活動センター (Youth+宮の沢)

No	種類	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (宮の沢)	【目的】困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくる。 【内容】個別支援、教育センターとの連携事業 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族等 【人数】新規登録：4人	【R5年度実績予測】			
				通年	35回	(0)	(0)
2	レベルアップ	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (宮の沢)	【目的】若者のニーズに沿い、気軽に参加できる体験活動や交流イベントを開催し、若者にとっての居場所をつくる。 【内容】ミニイベント 【対象】主に15歳～34歳までの若者 (事業内容によっては22歳まで) 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				通年	46回	(0)	(50)
3	レベルアップ	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (宮の沢)	【目的】地域と協働して施設外に活動場所をつくり、地域住民と若者との交流を行う。また、ユーザーと地域住民が連携し若者の成長を見守る環境を醸成する。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業) ①おしゃべりふうしゃ②放課後タイム 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】①3人程度②15人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	18回	(0)	(60)
4	継続	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (宮の沢)	【目的】若者の興味関心や活動・表現する場をつくり新規来館者の獲得をする。 【内容】Youth+宮の沢文化祭 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】40人程度	【R5年度実績予測】			
				12月	1回	(3)	(6)
5	継続	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (宮の沢)	【目的】若者が役割を意識することでグループの帰属意識を高める。また、グループのメンバー同士が互助し目標に向けて取組む機会をつくる。 【内容】サークル活動 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				7月～3月	1回	(0)	(40)
6	レベルアップ	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (宮の沢)	【目的】地域若者サポーターと連携し地域事業やボランティア活動等に携わり、地域社会との接点を持つことで社会への興味関心を高める。 【内容】地域活動事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R5年度実績予測】			
				8月、9月	2回	(0)	(0)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (宮の沢)	【目的】若者の特技や活動を社会に発信し、社会の一員であることを体験する機会をつくる。 【内容】三角山放送局ラジオ部 他 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】30人程度	【R5年度実績予測】			
				通年	年48回	(0)	(0)
8	継続	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (宮の沢)	【目的】多世代や地域の団体等、様々な人と関わることで多様な価値観に触れ、社会の一員としての気づきを促す機会をつくる。 【内容】Youth+宮の沢センターフェスティバル(ちえりあフェスティバル) 他 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】20人程度	【R5年度実績予測】			
				8月	1回	(60)	(63)
				【R6年度】			
				8月	1回	(150)	(100)

令和6年度 人材育成計画書（案）

【若者支援事業課】

1. 人材育成方針（人材育成における1年間の見通し）

社会の変化を捉え、積極的に課題に取り組むことができるプロアクティブな職員を育成する

コロナ感染症の分類移行に伴い、社会が活性化する中で若者の課題の顕在化により、ユースワークの必要性が増し人材の育成は肝要である。令和5年度は、職員のユースワークスキルの引き上げに努めるとともに、活動協会他課や他団体と共に広範囲な連携を生み出し、社会課題に向き合い取り組んできた。その中で、「大通交流拠点ユースワーク事業」の新規受託、ハイエース（リビングカー）を活用した多様な若者への支援や他課との連携による新規事業の展開は成果であると考えている。

令和6年度においては、これまでの成果を基に、職員のユースワークスキルの向上にさらに注力するとともに学習意欲を奨励する環境を整備しリーダーシップの強化に焦点を当て、自己効力感を高め変革に柔軟に対処ができる能力を培っていく。また、現場での体験や他機関との連携をとおして、多様な視点を尊重する文化を築くと同時に社会課題等へ敏感に反応する力や問題解決力の向上を図る。加えて、継続的なフィードバックと評価をとおして成長を促すとともに新たな挑戦を奨励し、持続可能な成長を生む環境の構築をとおしてプロアクティブな職員を育成、定着させる。なお、ユースワーク・相談支援・居場所づくりの3つの取り組みは、財団全体をリードする力量と立場にあり、これらの領域にある研修は同じくスキルを共有することも事業課と協同し全課に研修の場を提供することで、子ども・若者当事者に関わる人材の育成に貢献する。

2. 各部門において必要とする業務特有スキル（専門的な能力）

- ・ユースワークの専門性ならびにユースワーカーの資質の向上
- ・今後の事業をデザインし実行する力
- ・他課や他団体とのネットワークを活用する力
- ・スタッフの専門的知識を事業収益につなげる力
- ・経験年数別の5群に人材を捉え、若者支援事業課及び法人職員としての視野を広げる

3. 具体的な教育方法

	R6年度の取り組み内容	育成に取り組む内容・スキル等
OJT	・人事交流をとおした日常業務の遂行の見直し。 ・自己効力感を高めるプログラムとリーダーシップトレーニングの実施。 ・ユースワーカー掲示板の運営をとおして「学ぶこと」を重視する文化を構築する。	マインドセット ポータブルスキル 財団特有スキル 業務特有スキル
部門別研修	・若者の抱える様々な問題への専門的知識の習得と、ユースワークスキルの習得。 ・社会の動向や若者を取り巻く環境の理解、知識の習得。 ・職員の保有する経験やスキル、資格を収益に結び付けるための人材育成研修。	業務特有スキル ポータブルスキル
目標管理制度	・対象者に即した目標設定及び目標達成に向けた伴走型支援を行う。	ポータブルスキル
その他制度を活用した取り組み	・国や自治体、民間の実施する研修会等への積極的な参加。 ・オンライン・現地への出張による他団体との積極的な交流。 ・スーパーバイズによりリーディングプレイヤー及びマネージメントプレイヤーの強化育成を図る。	業務特有スキル ポータブルスキル

4. 研修計画

(単位：千円)

実施月	研修名	研修内容	対象	経費
4月 5月	職員全体研修	部門及び課の方針を理解し、行動計画、施設の安全管理等の共通認識を図る。目標達成に向けた行動計画の業務分担の検討を行う。	全職員 他課職員含む	0
4月 10月	防火・防災研修	札幌市地域防災計画に基づき、火災訓練及び総合防災訓練を実施する。 各Youth+において年2回実施。	全職員	0
4月 随時	新任異動者研修	施設設置の背景及び業務の内容の理解を深める。その他、施設運営を遂行するにあたり最低限必要となる知識を得る。また、新任・異動者からの疑問等の解決につながる研修を実施する。	新規採用者 新規着任者	0
5月 6月 9月	ユースワーク研修 (基礎・応用)	ユースワーカーの資質向上を目的に、全国の支援者を巻き込みながら若者支援に関する基礎知識の習得を図り、札幌におけるユースワークとして応用していく。	全職員 他課職員含む	100
7月	自立支援研修	自立支援相談窓口の運営に必要な「ケース検討」スキルアップ研修を実施する。また、職員の経験に応じて、「傾聴」「記録の取り方」等の基礎研修も取り入れる。	一般職員以上 相談員 他課職員含む	40
9月	デジタルリソース活用研修	業務効率ならびに情報発信力の向上に向けた、具体的な活用法を身に付ける。また、SNSの活用及びオンラインロビー運営等のノウハウを獲得する。	一般職員以上	100
随時	中堅職員研修	適正な事業評価に関する研修を実施する。実施にあたっては、外部講師や実施事業選定も含めて、効果的に取り組む。	係長職 主任職	60
随時	外部研修への参加	自らが業務遂行に必要となる研修を取捨選択し、学ぶ姿勢や意欲を高める。研修後、知りえた知識等を全体に共有する。 ※回数制限なし	一般職以上	50
随時	人事交流研修	自館以外のYouth+での勤務をとおして、ロビーワークや事業等の新たな視点や知識等を吸収し、効果的な事業展開につなげる。	一般職以上	0
随時	人材育成研修	リーディングプレイヤー及びマネージャーをつとめられる水準へのレベルアップを目指す強化職員を選定し、より効果的にスーパーバイズを実施する。	一般職以上	0

随時	業務交流研修	各事業についての情報交流等とおして、より効果的な展開を目指す。 ①各Youth+事業 ②プロジェクト事業	一般職以上	0
随時	出張研修・報告	外部研修への参加、他都市の現状視察等とおして、若者の抱える課題や現状を考える機会とする。参加後、得た知見を報告することで、Youth+全職員の情報共有を図る。	一般職以上	700

経費合計	1050
------	------

管理に係る収支計画書(令和 6年度)

法人・団体名 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

	科目	指定管理業務			自主事業				計
		管理費	事業費	小計	飲料販売	受託事業	サボステ事業	小計	
収入	指定管理費			178,094					178,094
	利用料金収入			30,300					30,300
	その他収入			963	1,302	3,436	42,583	47,321	48,284
	収入計			209,357	1,302	3,436	42,583	47,321	256,678
支出	人件費		139,701	139,701		3,302	39,802	43,104	182,805
	旅費・交通費		1,380	1,380			230	230	1,610
	通信運搬費		1,676	1,676			494	494	2,170
	減却償却		3,826	3,826			0	0	3,826
	消耗品費		2,622	2,622	630		235	865	3,487
	修繕費		750	750			0	0	750
	印刷製本費		0	0			0	0	0
	燃料費		4,894	4,894			20	20	4,914
	光熱水費		8,047	8,047	128		110	238	8,285
	賃借料		2,272	2,272			259	259	2,531
	保険料		600	600			0	0	600
	諸謝金		1,793	1,793			720	720	2,513
	租税公課		18,037	18,037		2	0	2	18,039
	支払負担金		366	366			0	0	366
	委託費		14,196	14,196			0	0	14,196
	役務費		5,203	5,203		132	3	135	5,338
	支払手数料		3	3			0	0	3
	備品費		680	680			0	0	680
	広告宣伝費		286	286			664	664	950
	会議費		16	16			0	0	16
	雑費		0	0			46	46	46
	行政財産目的外使用料		0	0	18		0	18	18
	法人事業費	6,818	0	6,818			0	0	6,818
	支出計	6,818	57,143	63,961	776	3,436	42,583	46,795	259,961
利益等	収支			145,396	526	0	0	526	-3,283
	利益還元							0	0
	法人税等								
	当期純利益								-3,283

※ それぞれの項欄について、必要に応じて小区分を設定しても構いません。
 ※ 行が足りない場合は、適宜追加してください。
 ※ 税込みで記載してください(以下、様式4-3から4-5まで同じ)。
 ※ 「利益還元」の項には、利益のうち還元額を記載してください。
 ※ 様式4-3から4-5までにより積算内容を記載してください。